

病院案内

SHONAN KAMAKURA
GENERAL HOSPITAL
INFORMATION



医療法人 徳洲会

湘南鎌倉総合病院
SHONAN KAMAKURA GENERAL HOSPITAL



徳洲会
グループの
原点

「**生命だけは平等だ**」のもと、

「いつでも、どこでも、
誰でもが最善の医療を
受けられる社会」を目指し、
「断らない医療」を実践する。

こうした
徳洲会グループの
志を持って、
湘南鎌倉総合病院は、
1988年に
設立されました。



世界の先端医療を取り入れ、
弱者を置き去りにしない
医療の実現を

院長 小林 修三



「断らない医療」は目的でなく結果であり、質の高い医療の基本となる第一歩です。当院は設立以来、常に「断らない医療」を実践し、どうすればより多くの患者さんに、より質の高い医療を提供し続けられるかを追求してまいりました。現在の当院の姿は、こうした長年の努力の末に手にすることができたものと考えています。

科学技術の著しい進歩や、超高齢社会を迎えるなど社会構造の大きな変化を受け、医療へのニーズは大きく多様化・高度化しておりますが、我われはこうした状況に対応するため全力を傾けております。しかし、どのような状況においても、「生命だけは平等だ」という原点に変わりはありません。我われはこの原点を拠りどころとする「生命を安心して預けられる病院」、「健康と生活を守る病院」という理念を目指し、弛まず進んでおります。

皆さまに愛され信頼され、来て良かったと言っていただける病院になることを目標としています。地域は当然のこと、日本中、世界中からご来院されるあらゆる患者さんに、やさしい病院であり続けたいと考えております。救命救急医療は当然のこと、予防医学、先進医療そして穏やかなエンディングまで一連の医療を行えるよう、「予防医学センター」を強化し、また「地域総合医療センター」を体制化して地域の先生方、行政関係の方々と綿密な連携をはかってまいります。様々な病と共に生きる患者さんにとって、心のケアはますます重要ですが、こうした精神的側面の緩和ケアを含め、「弱者を置き去りにしない医療」を追求してまいります。

現在当院では、がん診療はもとより、世界的に新しいカテーテル、ロボット手術、心臓手術、内視鏡的外科手術、トモセラピー・陽子線といった高精度放射線治療、さらには臓器移植、再生医療など次世代の新しい治療を提供できる病院として運営しております。新生児診療から小児診療まで、周産期から連続する医療体制の確立に向けても一步一步進めております。

ご理解とご協力さらにはご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

グランドオープンを経て、 進化を遂げる湘南鎌倉総合病院



当院は1988年に鎌倉市山崎に設立され今日に至るまで、理念に基づく「断らない」医療を実践してきました。その後、病院は増加の一途をたどる患者さんに対応するため、2010年9月、現在の岡本への新築移転を果たし、そして**2021年4月には、がん治療を中心に最先端の治療選択肢の提供を追求する先端医療センター棟をオープン**しました。

さらに**2022年4月には、増加・拡大する地域の医療へのニーズに応えるべく救命救急センター・外傷センター棟をオープン**しました。

救命救急センター併設型の外傷センター



救命救急センター・
外傷センター棟

外傷センターは、5つの専用の手術室とリハビリテーションセンターを備えております。関節内骨折や一般的骨折から重症四肢外傷(四肢挫滅損傷、神経・血管損傷、軟部組織欠損、解放骨折)まで幅広い外傷に対応しております。重度四肢外傷では基本的に、マイクロサージャリー(顕微鏡と特殊な手術器具を用いた血管や神経の縫合を行う手術)での機能再建術を実施しますが、いかに迅速に実施できるかが、後遺障害を減らし、早期の社会復帰を促すなど、患者さんの予後に大きく影響します。**新しい建屋で専用の手術室を持ち、救命救急センターとの連携も強化できたことで、さらに迅速な対応が可能**となりました。我々が、関東圏での外傷整形の最後の砦と自負しています。

外傷センター手術



ロビー(待合室)



2022年11月、既存の建屋や外構などの一連の工事が完了し、グランドオープンを迎えた湘南鎌倉総合病院。本館には、患者さん・ご家族との入退院を相談する専用のスペースとなる地域総合医療支援センターが完成し、我々は大きな進化を遂げようとしています。

これまでの歩み

1988年11月	鎌倉市山崎に湘南鎌倉病院 開設(開設者:盛岡 正博)(病床数368床)
1994年3月	湘南鎌倉総合病院へ変更
1996年4月	臨床研修指定病院 指定
2002年10月	病院機能評価 取得
2006年7月	DPC対象病院 指定
2007年3月	地域包括支援センター 開設
2007年4月	治験センター 開設
2008年7月	オンコロジーセンター 開設
2010年4月	セルプロセッシングセンター(再生医療) 開設
2010年9月	鎌倉市岡本(現在の所在地)に新築移転
2012年10月	JCI(Joint Commission International)認証取得
2013年3月	JMIP(Japan Medical Service Accreditation for International Patients)認証取得
2013年4月	救命救急センター 指定
2013年8月	外傷センター 開設
2014年4月	神奈川県災害協力病院 指定
2015年3月	神奈川県DMAT-L 指定
2015年4月	神奈川県がん診療連携拠点病院 指定
2015年5月	科学研究費補助金取扱い研究機関 指定
2018年4月	先端医療センター 開設
2020年4月	地域がん診療連携拠点病院 指定
2020年4月	地域医療支援病院 指定
2021年4月	先端医療センター棟(D棟) オープン
2021年4月	湘南先端医学研究所 活動開始
2022年4月	救命救急センター・外傷センター棟(B棟) オープン (外傷手術室5室オープン)
2022年7月	神奈川県DMAT指定病院 指定
2022年7月	神奈川県災害拠点病院 指定
2022年9月	院長 小林 修三 就任
2022年10月	ロボット手術・臓器移植センター 設立
2022年10月	急性期総合診療センター 設立
2022年11月	心臓センター 設立
2023年1月	地域総合医療センター 設立



鎌倉市山崎に開設(旧病院)



鎌倉市岡本に新築移転



先端医療センター棟

断らない医療

体調不良やケガで困っている患者さんに、速やかに診察や治療を提供することはとても重要です。当院は、設立以来、**救急搬送の受け入れ要請を「断わない」ことを実践し、救急搬送応需率は100パーセント**です。救急搬送件数は年々増加し、2022年は12カ月で22,355件、20年前と比較し4倍以上となりました。COVID-19流行等の影響で救急医療需要は急速に高まり、2023年1月には1日に100件以上の救急搬送が続きました。これらに対応できたのは、救命救急センターの職員のみでなく、病院全体、ひいては地域全体の理解と支援があったおかげだと考えています。



特に集中する時間帯、搬送を終えて待機する救急車

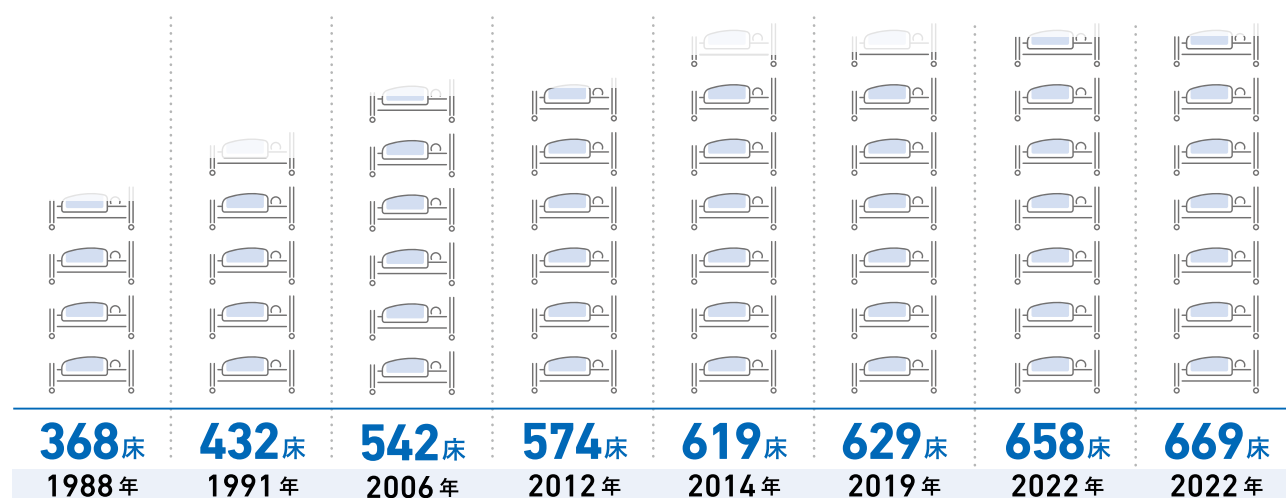
2022年に新築移転した救命救急センターは、こうした「断らない医療」を実践する体制を強化するものです。以前と比べ面積は約2倍となり、専用の画像診断設備(X線、CT、MRIなど)を1カ所に集約し、感染症診療などで使用する陰圧の初療室も備えています。スムーズな救急医療の提供や、地域の医療機関との連携のため、**救命救急センターにつくられた救急調整室という部署に救急救命士が所属し活躍**していることも当院の特徴です。

これからも「断らない医療」を実践し続けるとともに、**医療の質を高め、救急医療を必要とする患者さんに寄り添って**いきます。

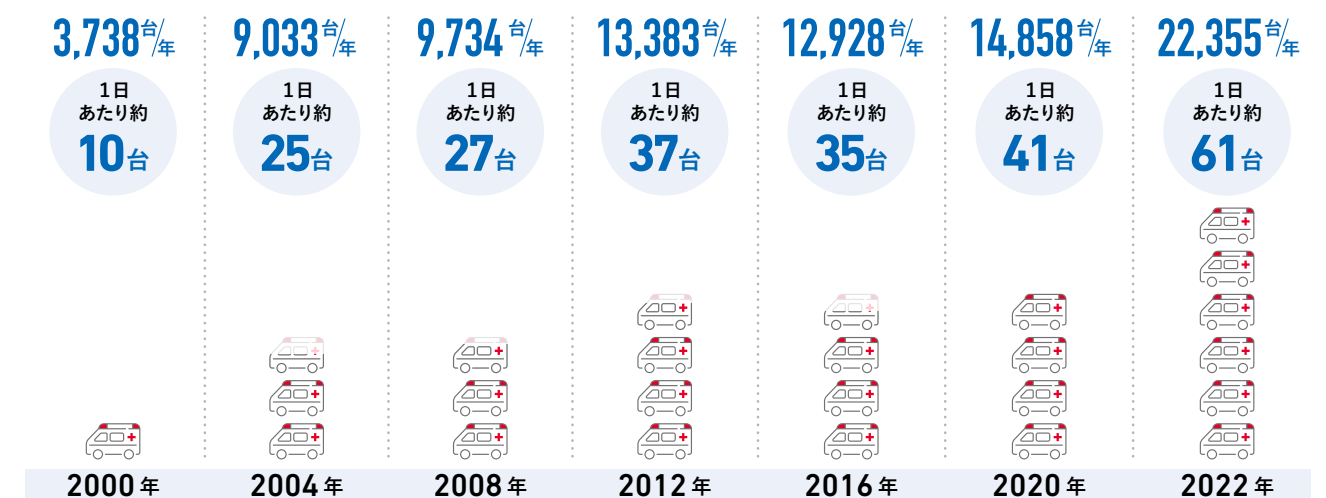


搬送予定の患者さんの状況を医師と共有する救急救命士

病床数の推移



救急車受入台数



包括的がん治療とは、従来のがん3大治療である外科手術、化学療法、放射線治療、さらには免疫細胞療法といった集学的な治療法に、診断時からの緩和ケア、療養から看取り、患者や家族の精神的ケアなどを加えたものを言います。当院は標準治療を適切に提供するだけでなく、できるだけ侵襲が少なく、多様ながんに有用な治療選択肢を加えていく方針であり、最先端の陽子線治療を行うほか、将来はBNCT（中性子線捕捉療法）といった一層先端的な医療の導入を準備しています※。また核医学を用いたPET/CTは、がんの有無や広がり、治療効果の判定、再発がないかを診断できる医療の大きな進歩の一つです※。

基本的な治療を終えこれ以上の治療の選択肢に乏しいと言われたがん患者さんや、心疾患、糖尿病、腎不全、認知症など多様な疾患を併発しているがん患者さんに対し、総合病院としての力を発揮してその受け皿となり、「がん患者さんを断らない」方針を貫いていきたいと思ひます。

※10～11ページ（先端医療センター）ご参照

がん診療連携拠点病院の概要

Designated Hospital for Cancer Treatment

当院は2020年4月1日付で厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担っています。がん患者さんが治療のために遠くの病院に通院することなく、自宅の近くで安心してがん治療ができるようにスタッフ一同努力しています。これからも、「がん難民」などといった言葉とは無縁であるよう、困難な状況であっても患者さんとともに考える、そういう心ある医療を提供していきたいと考えています。

また当院では、個々の患者さんに最適な治療法の選択を、関係する診療科の医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど多職種で検討する会であるカンサーボードで検討しています。



多職種カンファレンス

オンコロジーセンター Oncology Center

オンコロジーセンターはがんに対する集学的治療から社会的・心理的サポートまですべて行うことができるがん治療センターとして発足し、2008年7月に外来化学療法室をオープンしました。これまで各科別々に行われていたがん治療を集約化し、専門的知識を持ったスタッフが治療やケアを行うことでよりよい医療を提供することを目的にしています。

2021年4月に先端医療センターの開設とともに先端医療センター棟3階に規模を拡張して移転した先には、腫瘍内科、腫瘍外科、血液内科、緩和ケアの各外来、及び、30床の外来化学療法室を持ち、専門スタッフが患者様のがん治療のお手伝いをできる体制を取っています。



抗がん剤の調製



窓のある明るい外来点滴室

がん患者総合支援センター Comprehensive Support Center for Cancer Patients

がん患者総合支援センターでは、一定の研修を受けた看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、事務職員が、がん治療や緩和ケアだけでなく、経済的問題も含めたがん治療に関わる様々な問題の解決のお手伝いができる体制を整えています。また、患者同士の交流の場となるがんサロンの開催、アピアランスケア（治療による外見上の変化に対するケア・支援）、AYA世代（15歳～39歳の若年者）に対する妊孕性温存を含めた相談支援体制も整えています。



アピアランスケアの一環として行うウィッグの説明会

包括的がん治療を湘南鎌倉総合病院で具現化する構想は、当院が現在の場所に新築移転した2010年の当時、既に先達の中で温められておりました。基本的な治療を終えこれ以上の治療の選択肢に乏しいと言われたがん患者さんにさらなる治療選択肢を提供し、また、心疾患・糖尿病・腎不全・認知症など様々な疾患を併発するがん患者さんに対しては、総合病院としての力を発揮してその受け皿となり、**がん患者さんを「誰ひとり置き去りにしない」という構想**です。10余年も昔、世界の医療の潮流を読む中に描かれた未来の当院のビジョンは、2021年4月の先端医療センター棟の竣工により、実現に向けて大きく前進しました。

先端医療センターには、高精度放射線治療（トモセラピーや陽子線治療など）を扱う放射線腫瘍科、外来診療を担うオンコロジーセンター、PET/CT検査などを行う核医学診療部門、予防医学センター、再生医療センターなどがあり、隣接する湘南先端医学研究所を含めてトータルで運営されています。**個々の患者さんに最適な最先端の医療を高品質で提供していくことが使命**です。

高精度放射線治療（トモセラピー・陽子線治療）

High-precision Radiation Therapy : TomoTherapy, Proton Beam Radiation Therapy

当院ではトモセラピーや陽子線治療という高精度放射線治療を提供しています。トモセラピーでは、腫瘍の形に合わせて放射線を照射することができます。コンピュータ制御によって放射線の形状、強度を複雑に変化させつつ、360度方向から照射します。

陽子線治療は、ある深さにおいて強く作用し、また一定以上の深さには進まないという陽子線の特性を活かしたものです。いずれも正常組織への照射を低く抑え、がんに集中的に多くの放射線を照射することにより、治療効果を期待します。さらに次世代の高精度放射線治療として、ほう素中性子捕捉療法（BNCT）についても、臨床開始に向けた準備を進めています。



TomoTherapy



陽子線治療装置

核医学検査室（PET・SPECT検査室） Nuclear Medicine（PET, SPECT）

核医学検査は微量の放射線を出す放射性医薬品を体内に投与し、病気を診断する検査です。投与した医薬品が臓器や組織などに集まる様子を画像化し、病気の診断、広がりや活動性、治療効果の判定などに役立ちます。CTやMRIが臓器の形態的な情報を詳細に画像化するのに対し、核医学検査では血流や代謝などの機能的な情報を画像化して提供します。

核医学検査にはPET/CT、SPECT/CTの2種類の検査があります。PET/CTではFDGという放射性医薬品を使用し、主にがんを診断しています。SPECT/CTには様々な薬剤があり、脳、心臓、骨、甲状腺、唾液腺など各臓器に特化した検査を行います。いずれの検査も核医学による機能的情報と同時にCTによる形態的な情報を得ることができ、詳細な診断が



PET/CT

可能となります。

また当院では**アミロイドPET検査**を行っています。アルツハイマー病はアミロイドβと呼ばれる異常蛋白が脳内へ蓄積することで病気が進行すると考えられています。アミロイドPET検査では、脳内にアミロイドβが蓄積しているかどうかを検出することが可能で、アルツハイマー病を正確に区別・評価することで、治療方針の検討に役立ちます。

再生医療

Regenerative Medicine

再生医療センターでは、再生医療等安全性確保法を遵守した最先端の再生医療を、1人でも多くの患者さんに「当たり前の医療」として提供できることを目指しています。

現在、透析患者重症下肢虚血、急性腎不全、脊髄損傷、肝硬変など、従来有効な治療法が確立していない疾患に対して自己末梢血由来CD34陽性幹細胞による再生医療を提供しています。また、重症下肢虚血は、透析患者さん以外でも自由診療として再生治療を受けられるよう体制を整えました。さらに、2022年より新規に慢性腎臓病に対しても細胞移植治療を開始しました。



医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準（GMP）に準拠した細胞調整室



品質管理を徹底し、安全な細胞分離や培養をします

予防医学

Preventive Medicine

よりよい生き方をデザインするためには、ヘルスリテラシーを向上させ、身体の状態を把握しておくことが必要です。予防医学センターでは、フロア内にCTやMRIを設置し、動線を少なくした**快適な環境で高度な医療技術による健診をご提供**し、また、**病気の早期発見だけでなく、未病の改善、病気にならない身体作りに取り組むことができるよう受診者の皆様を支援**しています。さらに、総合病院に併設している健診機関ならではの強みを活かし、健診後に必要となった**精密検査や治療などが速やかに行われるように病院の各診療科と連携**しています。



予防医学センター

また当院では、**乳腺MRI検診（通称：ドゥイブス・サーチ）**も行っています。この検査では乳房を挟まないの全く痛みがありません。また、検査着やTシャツを着たままで検査できるので、乳房を誰にも見られず触られることもありません。

現在当院は、世界的に新しいカテーテル、ロボット手術、内視鏡的外科手術、トモセラピー・陽子線など最新鋭の高精度放射線治療、さらには臓器移植、再生医療など次世代の新しい治療を提供できる病院として運営しています。

近年では、2022年9月にロボット手術・臓器移植センターを、2022年11月に心臓センターをそれぞれ開設しました。

ロボット手術・臓器移植センター

Robotic Surgery and Organ Transplantation Center

当院では2012年より腎臓移植を開始しこれまでに約170例の腎臓移植を行い、1年生着率98%、5年生着率95%という良好な成績を示しています。2022年10月、今後の多臓器移植も視野に入れて「ロボット手術・臓器移植センター」を設立しました。

腎臓移植に関しては、腎移植内科医が中心となり内科管理を行い、外科系医師が手術を担当します。他施設ではあまり行われていない2回目、3回目の腎移植症例や多発性のう胞腎症例など尿路の疾患がある症例、血管吻合が難しい小児腎移植などにも対応しています。

また当院には、低侵襲で複雑な手術を可能とするために開発された、ダヴィンチというロボット支援手術装置が導入されています。ロボット部と操作部、助手用のモニターで構成されたこの装置のロボット部の先端には、鉗子やメスなどを取り付ける4本のロボットアームと内視鏡が装着され、術者は操作部に映し出される鮮明な内視鏡画像を見ながら、人の手首よりはるかに大きく曲がって回転する器具を使用して精緻な手術を行うことができます。なおロボット支援手術は完全に医師の操作によって実施されます。

医師、移植コーディネーター、薬剤師、検査技師、栄養士などの腎移植チーム、またロボット手術を実施する外科系の診療科が一丸となり、大きく発展させていきます。



手術支援ロボット ダヴィンチによる手術（手前がオペレーター）

心臓センター

Heart Center

2022年11月、循環器科と心臓血管外科で構成される心臓センターが開設されました。内科系と外科系の両診療科が連携・協力を一層強め、より効率的で有効な診断・治療を行い、治療を必要とする患者さんに最高水準の心臓血管の治療を安心して受けていただけることを目的としています。

循環器科

当院が1988年に開設された当初、鎌倉市を含む湘南地区では、急性心筋梗塞などに対する急性期治療に対する取り組みが必ずしも十分とは言えませんでした。このため、当時黎明期にあった急性心筋梗塞に対するカテーテルを用いた再灌流療法を、「どんな時でも、毎日24時間実践をする」ことを掲げてきた結果、当院の循環器科を訪れて下さる患者さんは徐々に増加していきました。

たくさんの患者さんから得られた治療および診断上の知見はエビデンス（医学的事実）にまとめられ、国際学会の場で発表され、有名英文医学雑誌にも掲載されていきました。これにより急性心筋梗塞に対する急性期ステント植え込みは世界の標準的治療法として確立するなど、当院の取り組みは日本全体そして米国を含む世界全体に還元されることとなりました。

心臓血管外科

心臓血管外科では、これまで手術が困難と言われた重症心臓疾患、一刻をあらそう緊急救命大動脈破裂、低左室機能の虚血性心筋症、腎不全透析中の心疾患などの患者さんも、決してお断りせず常に最良のタイミングで手術治療を行ってまいりました。さらに、高度に進んだ冠動脈疾患に対するオフポンプ冠動脈バイパス手術、最新の大動脈ステントグラフト治療、大動脈弁や僧帽弁の形成手術、完全内視鏡下小切開手術に至るまで、安全に確実に早期回復を可能にする低侵襲手術治療を進めています。近隣だけでなく全国からご紹介いただき、当院で心臓血管外科手術を希望される患者さんは現在増加中です。

心臓センターでは、循環器医、心臓外科医、多職種を含め、多くの仲間が「鎌倉の地から全世界の患者さんに対して毎日24時間、より良い治療法を普及させる」との信念の下で一緒に働いております。



当院内で行われる循環器がまくら Live では、心臓カテーテル治療の様子を専門医に共有



論文が掲載された医学雑誌



動脈グラフトによるオフポンプバイパス術後 CT



ステントグラフトで大動脈破裂の患者さんを救命中

患者さんと地域をつなぐ 地域総合医療センター

Regional Comprehensive Healthcare Center acts as a bridge between patients and regional healthcare support system

2020年4月に地域医療支援病院に指定された湘南鎌倉総合病院では、2023年1月に地域連携部門が統合され地域総合医療センターが発足し、活動を開始しました。

センター長、副センター長にそれぞれ急性期総合診療医師、看護師が任命され、入退院支援看護師やソーシャルワーカー、事務スタッフが協働して、入退院に関連した仕組みづくりや、院外へ向けた広報活動を行っています。

地域包括ケアシステムに則り、地域の医療機関・施設・居宅支援事業・行政などの方々とシームレスな連携を行い、**入院から退院まで患者さんが安心してお過ごしいただけるよう**支援をさせていただきます。

今後も、**地域の方々との共同ツールとなるAIシステムの構築など、様々な取り組みに向けてスタッフ一同で邁進**していきます。



2022年8月新たに患者支援センターがオープン



患者さん・ご家族のプライバシーを保つ個室の相談室は8部屋



入院・退院後の生活について患者さんのご相談を伺う

神奈川県災害拠点病院として

Kanagawa Prefectural Disaster Base Hospital

当院は2022年7月、県から災害拠点病院の指定を受け、同時に日本DMAT(災害派遣医療チーム)の指定も受けました。**災害拠点病院は、災害時に地域の医療機関を支援し、重症・重篤な傷病者の受け入れや搬出、災害医療チームの派遣・受け入れなど、医療救護活動で中心的な役割を担う病院**です。

当院は、2022年10月に神奈川県主体で開催された、大規模災害発生時を想定する訓練「ビッグレスキューかながわ」に、災害拠点病院として参加しました。当院のスタッフやDMAT隊員は、県内の他の医療機関やDMAT、TMAT、鎌倉保健福祉事務所などの関係機関と連携し、傷病者のトリアージ(重症度・緊急度選別)、ドクターヘリによる傷病者搬送といった医療救護活動など実践的訓練を行いました。



ビッグレスキューかながわ

教育 Education

安心で最善の医療を提供できる医療人の育成を目標とした、医療者の教育は当院の重要な任務です。基幹型臨床研修病院として毎年多くの初期研修医や専攻医の受け入れを行っております。すべての医師が先輩から教育を受け、自身は後輩を教育するという、いわゆる「屋根瓦式」の教育・研修システムにより、自身が教えられるだけでなく、教える側にも立つことでより深い学びを目指しています。また全国あるいは世界でも、当院の多くの医師が日夜医学の進歩を目指して研鑽を積んでいます。

当院は看護師の特定行為研修指定研修機関に指定されており、当院の多くの看護師が働きながら研修を受けています。修了後の目標は特定行為の実践にとどまらず、医師や多職種との連携強化や所属チーム全体の向上を促し、培ったスキルや知識を患者さんに還元することです。

グループの湘南鎌倉医療大学など医療関係技術者養成学校から、看護師、放射線技師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士など多職種の実習を受け入れています。



湘南鎌倉医療大学看護学生の実習



当院における研修医の臨床研修



研修風景（看護師の特定行為研修）

医学研究 Medical Research

当院では医学研究も盛んです。臨床研究では先進医療や医師主導治験につながる介入研究や、徳洲会全国75病院のデータバンク(TIS)、これまでバイオバンクジャパン(BBJ)に貢献したゲノムデータなど、ビッグデータを利用した研究も行われています。隣地のiPark(旧武田薬品中央研究所)内に有する湘南先端医学研究所(sRIIM)では、中国・カザフスタン・イランからの研究者も所属し、再生医学・腫瘍医学・一般炎症等医学・放射線医学の4分野の基礎研究が国際的に進められています。文部科学省科学研究費や企業との共同研究などから資金も交付されています。当院での研究は直ちに当院治験センターと連動しており、臨床への橋渡しも期待されます。



湘南先端医学研究所の入る湘南 iPark



タンザニア移植チーム

国際医療協力

International Medical Cooperation

「生命だけは平等だ」の理念のもと国際医療協力に積極的に取り組む徳洲会グループの活動の中で、当院は重要な役割を担っています。

アフリカやアジア諸国に人工透析機器を寄贈し、現地の医療従事者を研修生として受け入れ、技術指導を行うことを通じて、透析センターの開設支援に力を注ぎました。透析医療が十分に整備されていない地域で腎不全になることは、死を意味するためです。

アフリカ・タンザニア連合共和国で2018年3月、当国で初めて現地医療スタッフにより現地人の患者さんに行われた腎移植を支援した際にも、当院から多くの医師や医療スタッフを派遣しております。

医療啓発の取組み

Our Initiatives to Enhance Social Health Literacy

人びとのヘルスリテラシー向上に寄与するため、当院の医師、看護師ほか医療専門職が医療講座を行っています。インターネットでライブ配信し、一部は録画でも提供します。また、公民館、学校といった地域のコミュニティが主催する講演会にも講師を派遣しております。



出張講演の様子（県内の公立中学校）

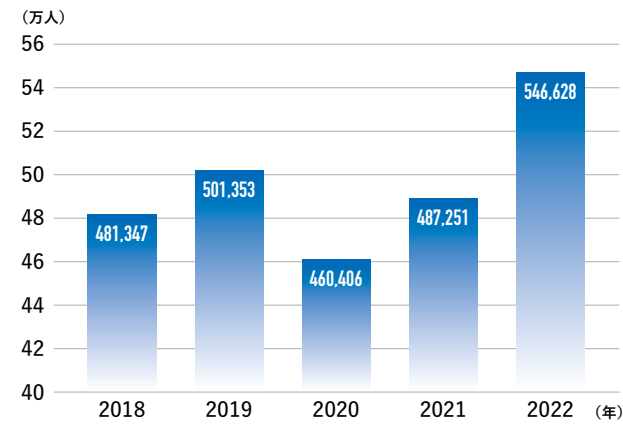
ファクトデータ Fact data

病院概要

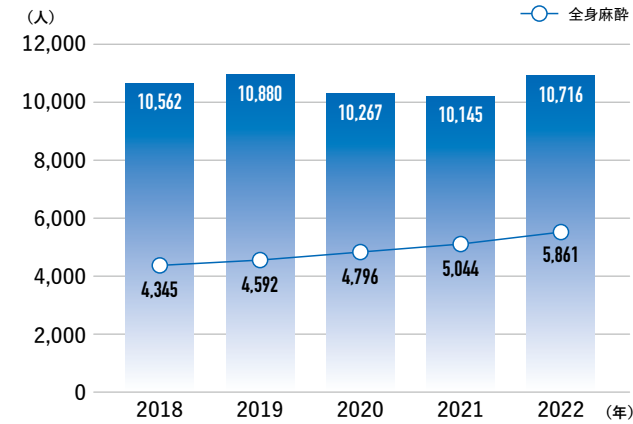
名 称	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院
所在地	〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番1
開 設	1988年11月



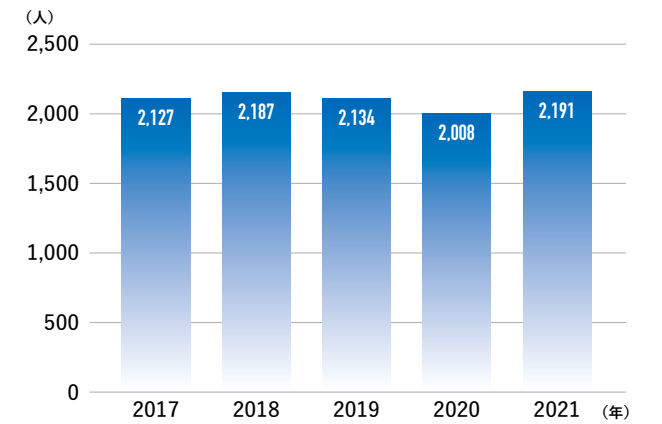
外来患者数



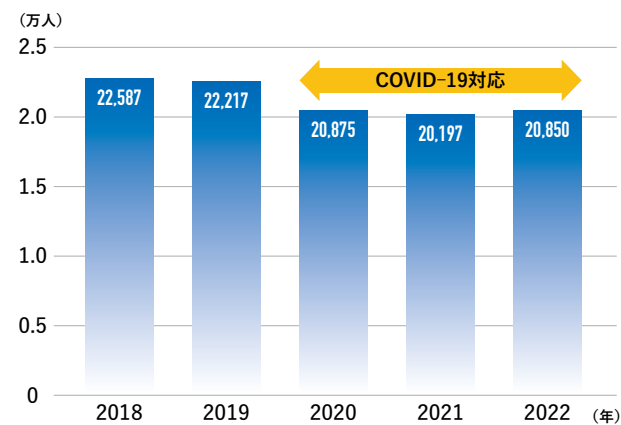
手術件数



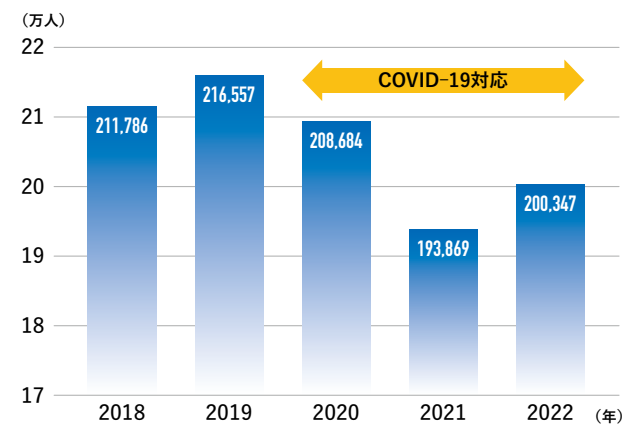
がん登録件数 (全登録例)



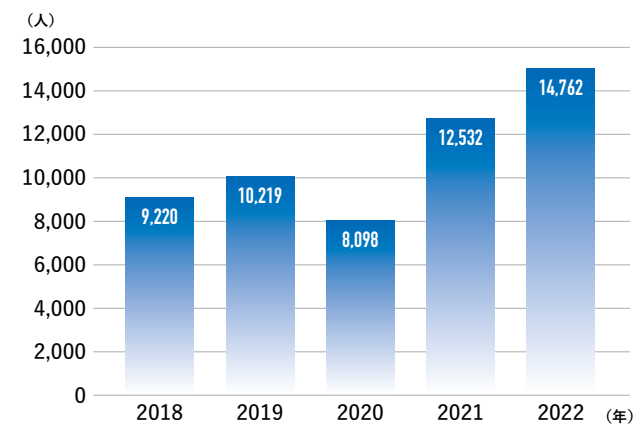
新入院患者数



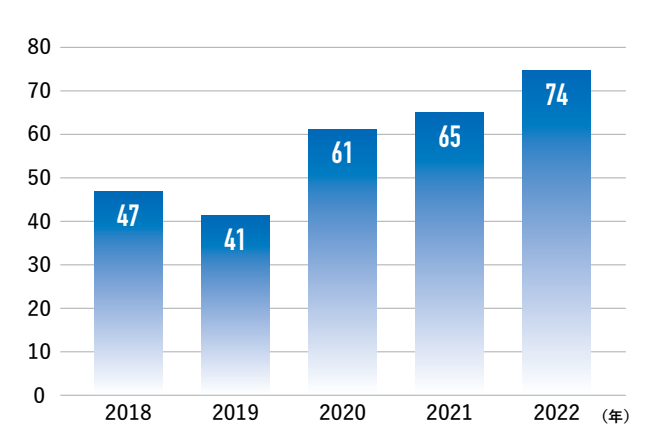
入院患者数



人間ドック件数



英語論文数 (筆頭著者、本誌掲載)



診療科について

内科系診療科	総合内科 総合診療科 血液内科 脳神経内科 腎臓病総合医療センター 糖尿病内分泌内科 免疫・アレルギーセンター 消化器病センター リウマチ膠原病内科 呼吸器内科 循環器科 腫瘍内科 SASセンター(睡眠時無呼吸外来)
外科系診療科	外科 乳腺外科 呼吸器外科 胸壁外科(漏斗胸) 肝胆膵外科 心臓血管外科 脳神経外科 脳卒中診療科(脳血管内外科) 泌尿器科 産婦人科・お産センター 形成外科・美容外科 整形外科 外傷センター 頭頸部外科 歯科口腔外科
専門診療科	眼科 耳鼻咽喉科 皮膚科 歯科口腔外科 放射線腫瘍科 再生医療科 心療内科 精神科 漢方内科 SASセンター (睡眠時無呼吸外来) フット外来 訪問科
急性期総合診療	ER/救急総合診療科 集中治療科 総合内科 総合診療科
診療センター	腎臓病総合医療センター 消化器病センター 免疫・アレルギーセンター 心臓センター ロボット手術・臓器移植センター IVRセンター 外傷センター 人工関節センター 日帰り手術センター シェントケアセンター 先端医療センター オンコロジーセンター 予防医学センター 脊椎脊髄センター 産婦人科・お産センター 大動脈センター 脳血管障害予防センター
周産期・小児医療	産婦人科・お産センター 新生児科 小児科
診療支援	放射線診断科 麻酔科 病理診断部 感染対策室

評価認定について

JCI 認証について



国際的医療機能評価 (JCI)

認定を受けました

患者さんの医療安全の確保、質の高い医療の提供、継続的な医療の質改善活動が行われている医療機関が受けることのできる認証です。その評価基準は世界的に最も厳しく、世界的な病院マネジメントのスタンダードと言われています。当院は2012年にJCI認証を受け、以来、約3年毎に厳格な審査を受け、認証を更新しています。



外国人患者受入機関認証

認定を受けました



働きたい病院認証

認定を受けました



日本医療機能評価

認定を受けました



卒後臨床研修評価

認定を受けました



バスでお越しの方

神奈中バス 江ノ電バス

大船駅ご利用の場合

東口(湘南モノレール駅下バスターミナル)

- 1 番乗場 ● 江・N60 湘南鎌倉総合病院 藤沢口経由「藤沢駅北口」行……………湘南鎌倉総合病院藤沢口下車
(月～金の平日のみ運行)
- 江・N64 湘南鎌倉総合病院 藤沢口経由「湘南アイパーク」行……………湘南鎌倉総合病院藤沢口下車
(月～金の平日のみ運行)
- 江・N 6 湘南アイパーク経由「藤沢駅北口」行……………南岡本下車

西口(大船観音側)

- 1 番乗場 ● 神・船32 渡内経由「藤沢駅北口」行……………公会堂前下車
- 神・船101 城廻中村経由「大船駅西口」行……………公会堂前下車
- 神・船102 公会堂前経由「城廻中村」行……………公会堂前下車
- 2 番乗場 ● 神・船34 公園前経由「南岡本」行……………南岡本下車

藤沢駅ご利用の場合

北口(ビックカメラ側)

- 9 番乗場 ● 江・N60 湘南鎌倉総合病院 藤沢口経由「大船駅東口交通広場」行……………湘南鎌倉総合病院藤沢口下車
(月～金の平日のみ運行)
- 江・N62 湘南鎌倉総合病院 藤沢口経由「四季の杜」行……………湘南鎌倉総合病院藤沢口下車
(月～金の平日のみ運行)
- 江・N 6 湘南アイパーク経由「大船駅東口」行……………南岡本下車
- 4 番乗場 ● 神・船32 柄沢橋・渡内経由「大船駅西口」行……………公会堂前下車

南口(小田急百貨店側)

- 8 番乗場 ● 江・F65 湘南アイパーク経由「湘南鎌倉総合病院」行……………湘南鎌倉総合病院下車



タクシーでお越しの方

- 大船駅西口(大船観音側)より約10分
- 大船駅東口
(湘南モノレール駅下バスターミナル)
より約15分



無料シャトルバスでお越しの方

- 大船駅西口 ↔ 湘南鎌倉総合病院
- 湘南鎌倉総合病院 ↔ 湘南かまくらクリニック/
湘南鎌倉パースクリニック

<https://www.skgh.jp>



医療法人 徳洲会

湘南鎌倉総合病院
SHONAN KAMAKURA GENERAL HOSPITAL



〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番1 TEL. 0467(46)1717